

聖隷こども園こうのとり富丘

【教育・保育理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法・児童憲章にのっとり、健康で安全・安心な乳幼児の保育・教育を目指します。

*愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。

*一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。

*自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。

*在園・地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する。

【施設目標】

子どもたちの“今”が未来を創る～“その人らしく・その家族らしく”未来を描けるように～

【2022年度の重点目標】

- ・園の子どもたち一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることをお互いに認め合って過ごすことができるよう、教育・保育の環境を整える。
- ・全体的な計画の重点目標の一つである『統合保育・多文化保育を通じた人権を大切にする保育』に着目し、こども園・児童発達支援・訪問看護を併設する園として、「教育・保育・療育・看護ケア」を生かし、保育を展開していく。
- ・多職種の職員がお互いの実体験をもとに語り合い、複数の視点を持ち、視野を広げ、支援に活かす。

『人権擁護のためのセルフチェックリストより』

評価項目別の達成及び課題状況項目	自己評価・課題
(1) 子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり	・子どもが見せてくれるありのままの姿を受け入れ、一人ひとりに寄り添った保育を意識しながら関わっている。 子どもの思いを聞きながら、自発的に行動できるよう促すような関わりを心がけ、子どもに寄り添った保育を行うよう努めている。
(2) 物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ	子どもの行動やしぐさ、表情から内面を読み取るよう努め、こども理解のもと、子ども自身が考えて自主的に取り組めるような声かけを意識している職員が多い。 今後も、子どもがどうしたら気持ちよく気持ちを切り替えられるか、状況に応じた対応を心がけていく。
(3) 罰を与える・乱暴なかかわり	自分自身に余裕がないと感じた時に、職員間で周りに助けを求められる環境であることを長所と感じている職員が

<p>(4) 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しない関わり</p> <p>(5) 差別的なかかわり</p>	<p>多い。 保育の中で感情的になりそうな場面や、余裕がなかったりするときには他職員と助け合える関係性を引き続き、築いていきたい。</p> <p>それぞれの家庭環境を考慮し、保護者の思いを受けてめて配慮や援助を行っている。子どもの成長を共に喜んだり、園での様子を共有することを大切にしている。</p> <p>周囲にとって好ましくない行動をとった際に、少し見方を変えて一人一人の良いところ、素敵などころに目を向けるよう意識をしている職員が多い。意識して保育にあたることで、子どもたちひとりひとりとより関係を築くことができると感じている。</p>
<p>《人権擁護のためのセルフチェックリストでの振り返りを実施して》</p> <p>チェックリストの目的である『保育を行ううえで重要な「子どもを尊重する」ことや「子どもの人権擁護」について改めて意識を高め、自らの保育を振り返る』ために、チェックリストを使用し振り返りを行った。その中で、園の保育理念であるキリスト教の精神を大切に保育にあたることで、子どもたちひとりひとりを尊重した保育につながることを再確認することができた。</p> <p>また、園の強みである職員間の連携やチームワークの良さをいかして、声を掛けあい、共に保育を行える環境を維持していくことで、不適切保育につながるような状況を未然に防ぎ、ゆとりをもって保育にあたることを再確認することができた。今後も、課題について共に考え合える関係性を大切に、風通しのよい職場を維持することでよりよい保育を目指していく。</p>	